

2010年10月28日 第2四半期決算説明会

2011年3月期第2四半期連結決算内容

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 田中 久

TEL: 03-3248-2235

E-mail: tanakah@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

2011年3月期第2四半期連結業績と通期業績見込

単位: 億円 (未満切捨て)	第2四半期(累計)			通期		
	実績	前年同期間 比増減	前回(E) 比増減	(E)	前年同期間 比増減	前回(E) 比増減
売上高	2,192	-30	-1	4,352	-29	-42
営業利益	89	+14	+5	170	+1	+2
経常利益	86	+17	+11	160	+5	+10
当期純利益	51	+4	+7	91	+0	+8
EPS(円)	17	+2	+2	29	+0	+3

1. 売上高

注: (E)は今回発表した見込、前回(E)は7月27日に発表した見込。

①全体では1%の減収。水産・低温物流が増収だったが、加工食品は昨夏のチキン加工品の一部のEM調達の打切りやアセロラ飲料事業売却の影響により5%の減収。下期は水産・低温物流の見込を引き下げ、通期目標は前回Eから42億円下方修正、前年比で29億円減収となる。

2. 営業利益

①全体では前年比では14億円の増益で、前回予想も5億円上回った。

②加工食品はチキン調達コスト改善が想定を上回って寄与したことに加え工場生産性の改善や固定費減も想定どおり進み前年比20億円の増益となった。

③水産は産地相場の上昇を円高が緩和して3億円の増益となる一方、畜産は口蹄疫の影響や販売価格の低迷により利益率が低下し2億円の減益となった。

④低温物流は物流ネットワークが地域保管と海外を下支え。前年比では2億円の減益だが目標を2億円上回る。

⑤通期目標は前期実績を上回り前回E比2億円上方修正。

3. 経常利益・当期純利益

①前年度に発生したアセロラ飲料事業の売却益と、当年度に資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額が発生したことにより特別損益は前年比11億円の減少。

2011年3月期第2四半期セグメント別売上高・営業利益と通期見込

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

		第2四半期(累計)					通期				
		実績	前年同期間比		前回(E)比		(E)	前年同期間比		前回(E)比	
			増減	率	(E)	増減		増減	率	(E)	増減
売上高	加工食品	809	-45	-5%	798	11	1,603	-18	-1%	1,606	-3
	家庭用調理品	233	1	0%	235	-2	468	4	1%	481	-13
	業務用調理品	376	-31	-8%	378	-2	782	8	1%	770	12
	健康価値	27	-22	-46%	23	4	52	-28	-35%	46	6
	その他	173	8	5%	162	11	301	-3	-1%	309	-8
	水産	344	7	2%	346	-2	670	-2	-0%	695	-25
	畜産	384	1	0%	390	-6	770	-6	-1%	770	0
	低温物流	702	7	1%	708	-6	1,402	12	1%	1,418	-16
	物流ネットワーク	384	14	4%	384	0	774	21	3%	772	2
	地域保管	224	-8	-4%	226	-2	444	-8	-2%	451	-7
	海外	80	-4	-5%	83	-3	161	-4	-3%	168	-7
	その他・共通	14	6	68%	15	-1	23	3	14%	27	-4
	不動産	35	-0	-1%	36	-1	67	-3	-4%	71	-4
	その他	30	-4	-11%	30	0	63	-6	-9%	64	-1
	全社または消去	-112	3	—	-114	2	-223	-6	—	-230	7
合計	2,192	-31	-1%	2,194	-2	4,352	-29	-1%	4,394	-42	
営業利益	加工食品	25	20	377%	22	3	47	21	84%	45	2
	水産	7	3	91%	5	2	10	1	12%	9	1
	畜産	0	-2	-83%	3	-3	3	-4	-56%	6	-3
	低温物流	39	-2	-5%	37	2	73	-6	-7%	73	0
	物流ネットワーク	14	5	47%	14	0	27	7	34%	26	1
	地域保管	23	-5	-18%	23	-0	43	-10	-19%	44	-1
	海外	4	-1	-25%	3	1	6	-1	-17%	7	-1
	その他・共通	-2	-0	—	-3	1	-3	-2	—	-4	1
	不動産	19	0	2%	19	-0	38	1	2%	38	0
	その他	2	0	15%	1	1	3	-1	-30%	2	1
	全社または消去	-2	-5	—	-3	1	-4	-11	—	-5	1
	合計	90	15	19%	84	6	170	2	1%	168	2

1.加工食品

- ① 売上げは前年比45億円減収、チキン加工品の一部OEM調達打切りと事業売却したアセロラ飲料の減収が主因。業務用は全体では8%の減収だがチキンを除く業務用は2Qではほぼ前年に近い水準まで回復した。また、家庭用は前年並み売上げで、肉食拡大による需要押し上げ効果には一巡感がある。
- ② 営業利益は前年比20億円の増益。不採算であったOEM調達の打切りや原材料価格低下が継続したこと、工場生産性の改善等により採算が改善した。また前年は貸倒損失が発生していたことや営業費用などの固定費の減少等も加わり大幅な増益となった。
- ③ 通期予想は、売上高を3億円下方修正。家庭用を減額するが業務用はチキンの拡販で増収。タイのチキン加工設備の稼働開始が遅れるが商品は確保しており販売に影響なし。営業利益はタイの不稼働経費が発生するが、上期の増益を反映して2億円上方修正。

2.水産

- ① 売上高は前年比2%の増収。採算面では産地相場の上昇を円高が緩和したことやえびの販路拡大などで3億円の増益となった。
- ② 通期予想は売上高は25億円の下方修正、営業利益は上期の状況を反映し1億円の上方修正とする。下期も産地相場の上昇が見込まれるため慎重な買い付けに徹する。

3.畜産

- ① 売上高は前年並みを維持。採算面では店頭での低価格化が続く中、需給が悪化した国産鶏肉、口蹄疫の影響を受けた国産豚肉、輸入価格が上昇した牛肉の収益性が悪化、黒字は確保したが2億円の減益に。

- ② 通期予想は、営業利益は上期の減益をうけて3億円下方修正。下期は市況回復により当初見込を変更しない。

3.低温物流

- ① 全体では売上げが1%の増収、営業利益が2億円減益。好調な物流ネットワークが地域保管と海外をカバーする形で進捗、営業利益は計画を上回る。
- ② 物流ネットワーク: 売上げは前年比4%増収、新設TC(通過型センター)が寄与。営業利益は重点課題である運送効率の向上も進んで5億円の増益となる。
- ③ 地域保管: 売上げは4%減収、営業利益5億円の減益。設備更新に伴う減価償却費負担に加えて、在庫量は回復基調だが在庫率が低下していることも要因。
- ④ 海外: 売上げは5%の減収、営業利益は1億円の減益。欧州の物量減少には歯止めはかかってきたが回復状況は品目によりばらつきがある。
- ⑤ 通期予想は、売上高は地域保管と海外中心に16億円下方修正、ユーロ安による為替換算影響は4億円。営業利益は地域保管と海外を下方修正する一方、物流ネットワークの上方修正と共通費用の圧縮により全体では変更しない。

4.その他

- ① バイオサイエンスは培地製品が好調でインフルエンザキットの特需があった昨年上期並の営業利益を確保。

2011年3月期第2四半期連結バランスシートの変動要因

単位: 億円(未満切り捨て)

科目	10/9	10/3	増減	
〔資産の部〕				
流動資産	1,001	948	53	①
固定資産	1,859	1,826	32	②
資産の部合計	2,860	2,774	85	
〔負債・資本の部〕				
流動負債	968	895	73	③
固定負債	659	652	7	④
負債の部合計	1,628	1,548	80	
純資産の部	1,231	1,226	5	⑤
(うち株主資本)	1,195	1,159	35	
有利子負債	919	857	61	③
(うちリース債務除く)	685	609	76	④
科目	10/9	09/9	増減	
設備投資額	99	113	-13	⑥
(うちリース資産除く)	89	67	22	
減価償却費	67	65	2	
(うちリース資産除く)	49	47	2	

【主な要因】

- ① 流動資産は季節的要因により売掛金およびたな卸資産が増加。
- ② 固定資産は資産除去債務の計上および設備投資により有形固定資産が31億円、ゴドフロアの買収によりのれんが13億円それぞれ増加。株価の下落により投資有価証券が20億円減少。
- ③ 流動負債は買掛金が16億円増加し、設備投資やゴドフロア取得により短期借入金が74億円増加
- ④ 固定負債は資産除去債務が18億円増加。リース債務が12億円減少。
- ⑤ 純資産は利益増とユーロ安などによる減少を差し引きして5億円増加。
- ⑥ 第2四半期の設備投資の主なもの
 低温物流 福岡東浜DC
 加工食品 GFPTニチレイ、スラポンニチレイ食品(チキン加工品生産設備)

2011年3月期第2四半期 営業外収支・特別損益の変動要因

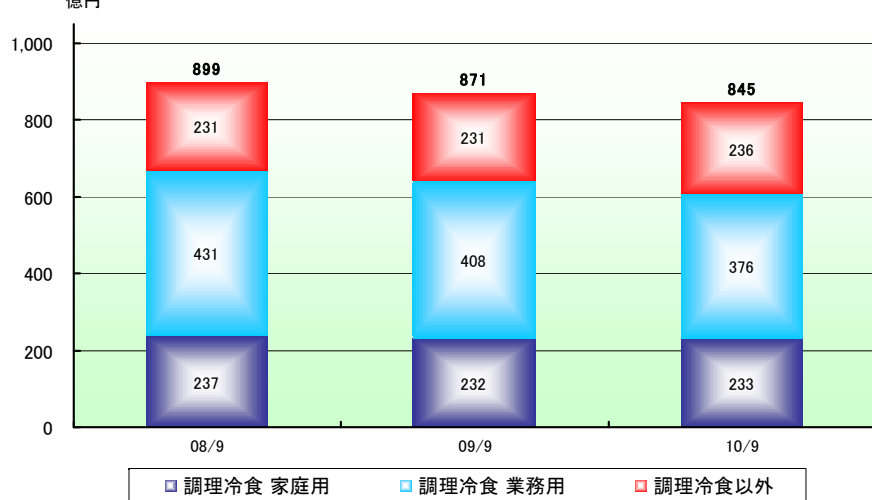
単位:億円(未満切り捨て) プラス表示は利益を示す		第2四半期(累計)					通期		
		10/9	09/9	増減			(E)	前年同期間 比増減	前回(E) 比増減
【営業外収支】		-3	-6	+3	【営業外収支】		-10	+3	+8
(主要項目)					(主要項目)				
金融収支		-3	-5	+1	金融収支	③	-11	+0	+5
その他営業外収益		+5	+4	+1	持分法投資損益		+2	+2	+1
【特別損益】		-5	+6	-11	【特別損益】		-18	-7	-
(主要項目)					(主要項目)				
固定資産売却益		+4	+2	+2	固定資産売却益		+6	+3	-2
事業譲渡益	①	-	+8	-8	事業譲渡益	①	-	-8	-
資産除去債務会計基準適用影響額	②	-7	-	-7	資産除去債務会計基準適用影響額	②	-7	-7	-
					事業所閉鎖損失		-7	-1	+2

- ① 前年度に発生したアセロラ飲料事業の売却益がなくなったため
- ② 資産除去債務会計基準の適用に伴い特別損失が増加
- ③ 有利子負債残高および支払利率が想定を下回り営業外費用が減少

参考データ

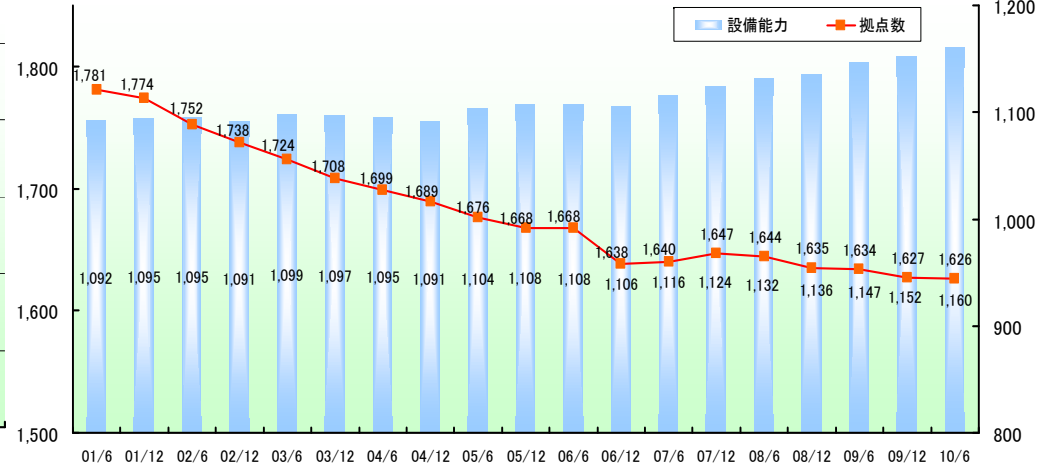
冷凍食品売上高の推移

(日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む) 億円



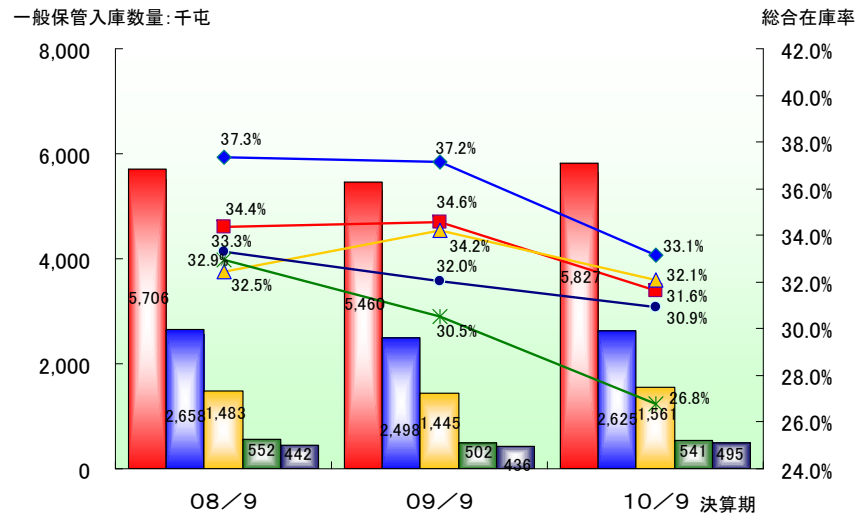
冷蔵倉庫業界収容容積推移

(日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工) 万ト



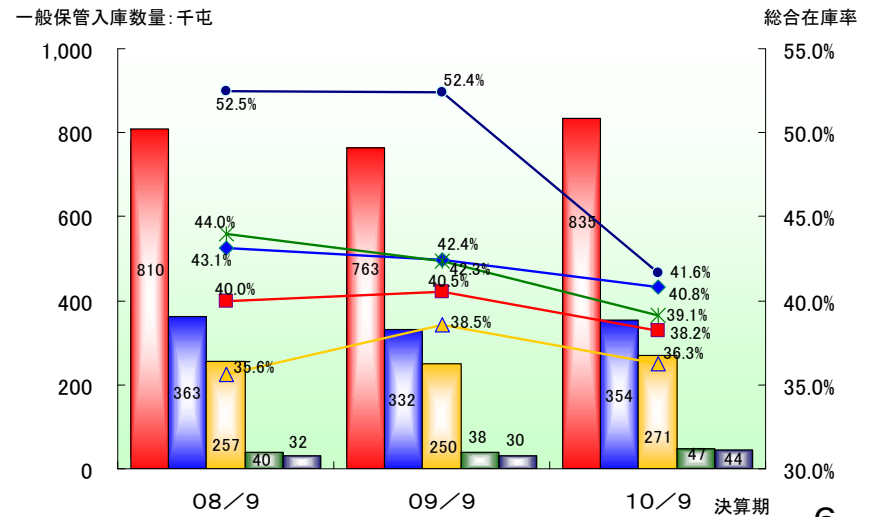
冷蔵倉庫の稼働状況 (業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)

業界の冷蔵倉庫稼働状況



* 札幌石狩地区、名古屋尾北地区を含む

ニチレイグループの冷蔵倉庫稼働状況



当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。